

子どもと向き合う時間を生み出す組織の編成と運営の工夫 ～「学級経営と体育」研究を核としたチーム勝小の取組～

千葉県八千代市立八千代台小学校(前勝田台小学校) 島川 英昭

I 現状と課題

1 現状認識

人工知能(AI)の進化、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中で、学校を取り巻く課題は山積されており、教職員は課題解決に追われ、多忙化が進んでいる。また、学校現場では、年齢構造の2極化の中、諸課題の解決がより困難となり、子どもと向き合う時間の確保が課題となっている。このような状況下、中央教育審議会は「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(平成31年1月25日)」を答申した。

2 課題分析・アプローチの視点

子どもと向き合う時間を確保する組織編成と運営を行うには、第1に、「保護者、地域に信頼される学校づくり」を進めることが重要であると考えます。

第2は地域や関係諸機関等、校外との連携、協働である。教職員への負担軽減を図りながら、外部の力を学校経営に反映させ、教育効果を上げることについてアプローチする。

II 研究の概要

1 信頼される学校づくり「チーム勝小」

(1) 体育研究を核としたチームづくり

本校は、昭和46年に第1回体育科公開研究会を開始して以来、研究主題を「学級経営と体育」として体育研究を継続し、毎年度公開研究会を実施している。

学校教育目標「21世紀をたくましく生き抜いていける子ども」を具現化する全ての教育活動の基盤は学級経営である。また、体育の本質が、身体活動による人間形成を目的とした営みとするならば、心身の健全な発達を促すばかりでなく、学級担任が学級経営上欠くことのできない望ましい人間関係形成のために最善の道だと考える。さらに、体育で培われた良い面は、必ず多方面にも転化する。本校は、この学級経営と体育の理念を学校経営の基盤とし、チーム勝小として取り組んでいる。

また、体育授業、体育の日常化が健康で節度ある生活に良い影響を与えている。地域参加型の春季大運動会及び小運動会は子どもと教師が一体となったがんばりを保護者や地域に発信する大切な機会となっている。

(2) 校務分掌の工夫

① 教務部の強化

中教審答申では、「チームとして学校」を実現するために主幹教諭制度の充実を図り、管理職の補佐体制を充実するとある。本校では、鍋蓋式組織ではないチーム体制を整えるため、教務主任のもと低中高学年各ブロックに副教務主任を配置し、若い担任をリードし、効率的な業務と適切な情報伝達を推進している。

② 担任外教職員の活用

ア 専科教員

音楽専科に加えて英語専科が配置された。英語専

科は、担任、ALTやCTAとも連携し、教材開発から指導計画立案、評価などに取り組み、担任の負担が大幅に軽減された。子どもと向き合う時間を生み出す面でも大変効果的である。

イ 事務職員

学校における働き方改革緊急対策の中では、事務職員が担うとされた業務が多い。本校の事務職員はICTに長けており、学校のHPを工夫して学級閉鎖中の保護者からの健康状況報告が行えるようにしたり、登校許可証をダウンロードできるようにしたりして校務の効率化に努めている。一方、通常業務も事務職員は多く、事務職員の複数配置等が必要であると考えます。

ウ 通級指導教員

本校には通級指導教室が設置されている。特別に支援を要する児童が通級指導教室で、きめ細かな指導を受けており、情報が担任とも共有されている。

(3) ICTの利活用

八千代市では、ICTによる校務の効率化が進んでいる。市内のイントラネットで情報の交換ができる他、校務システムを活用して諸表簿を一括管理できている。また、VPNにより自宅等からホストコンピュータにアクセスすることも可能である。授業のICT利活用も進んでおり児童はタブレットを活用している。

2 校外組織との連携

校外組織との連携では、交通安全面でスクールガードの方々、防災教育の推進で、市の総合防災課と連携してきた。親父の会主催の段ボールキャンプも、毎年本校体育館で実施している。PTAにも日頃より除草活動、児童の見守り活動、バザーへの協力などを積極的に行っていただいている。また、吹奏楽部が地域行事に参加する際の運営にも保護者が関わってくださり、職員の負担軽減が図られている。

III 成果と課題

1 成果

- ・「学級経営と体育」を核として信頼される学校づくりを進めることにより、子どもと向き合う時間が確保される。
- ・校務分掌の工夫、全てのスタッフの力の結集により、課題に立ち向かい改善を図る教職員集団となっている。

2 課題

- ・学校の努力にも限界がある。業務改善と子どもと向き合う時間の確保には、公による人的、物的、財政的環境の整備が期待される。

IV 提言

「和して同ぜず」という理念を教職員に示し、「授業が勝負」と常に言い続けてきた。保護者や地域にも、子ども、教職員の姿を示し信頼される学校づくりを進めることが、何より教師が子どもと向き合う時間を確保することになると考える。チーム学校の宝は全ての学校スタッフである。